

【家庭科・中2・「家族みんなが安全で快適な住まいにしよう」】①

本時のねらい

住まいの役割や生活行為による住空間の分類を考えると、家族の生活と住空間の関わりについて理解できる。

ICT活用のポイント

家族それぞれの立場に立って部屋の使い方を考える場面において、電子ホワイトボードで思考ツールを使用し考えを整理することで、家族みんなが心地よく過ごすためには思いや願いを互いに尊重しながら住空間を整える必要があることに気付かせる。

課題把握

- 本時の課題をつかむ

住まいには、どのような役割があり、家族の生活にどのように関わっているだろうか。

課題追究・解決

- 住まいの役割について考える
- 生活行為と住空間についてまとめる
- 家族みんなが心地よく過ごせるように部屋の割り振りを考える

振り返り

- 本時の授業で分かったことや自分の住まいについて振り返る

事例の概要

- 住まいがなかったら困ることについて考えたことを基に、住まいの役割を考える。
- 家庭での経験を基に、生活行為と住空間の関わりをまとめる。
- 家族と住まいの関わりについて考える。

ICT活用場面①

学習支援ソフトのテキスト分析機能を活用し、住まいがなかったら困ることについて入力された内容を基に、住まいが果たしている役割を考える。

ICT活用場面②

学習支援ソフトのスタンプ機能を活用し、例示された家族構成と間取り図を基に、スタンプを操作しながら、一人一人が使う部屋の割り振りを考える。

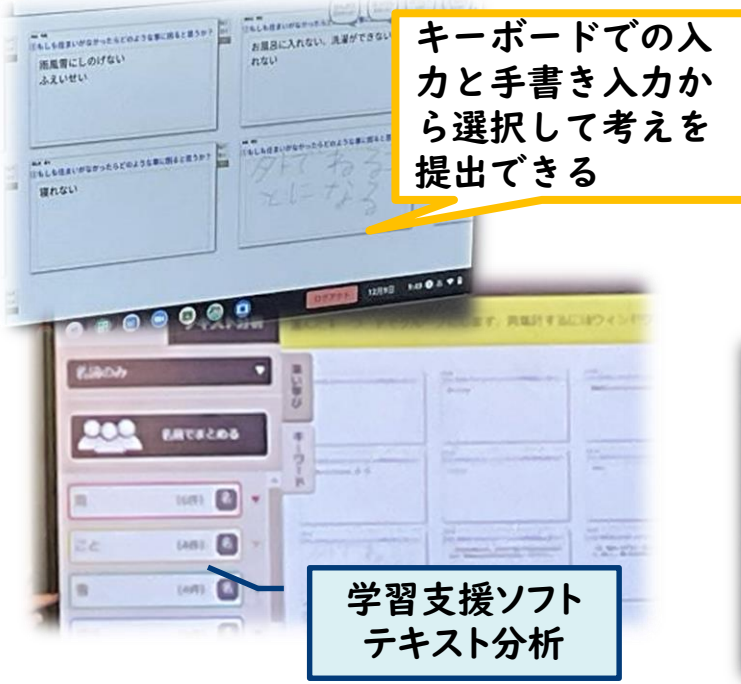
ICT活用場面③

電子ホワイトボードに示した思考ツールを活用し、5年後の家族構成の変化に伴い、使用する部屋の割り振りに関して家族一人一人の希望を出し合う。
電子ホワイトボードに示した間取り図に、部屋の割り振りをデジタル付箋で示し対話しながら、家族みんなが心地よく過ごせるように調整し部屋の割り振りを考える。

【家庭科・中2・家族みんなが安全で快適な住まいにしよう】②

【 ICT活用の場面① 】

住まいが果たしている役割を考える



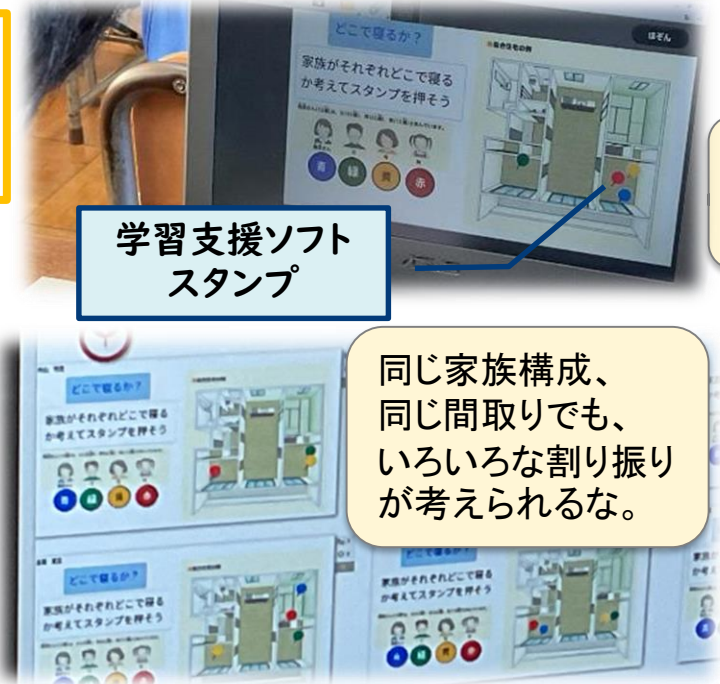
キーボードでの入力
と手書き入力から
選択して考えを
提出できる

学習支援ソフト
テキスト分析

住まいがなかったら困ることについて、自分の考えを学習支援ソフトに入力しました。ICT端末で各自の考えが共有され、多様な考えに気付くことができました。
次にテキスト分析機能を活用し、入力された内容を基に住まいが果たしている役割を考えました。

【 ICT活用の場面② 】

例示された家族構成と間取りを基に
部屋の割り振りを考える



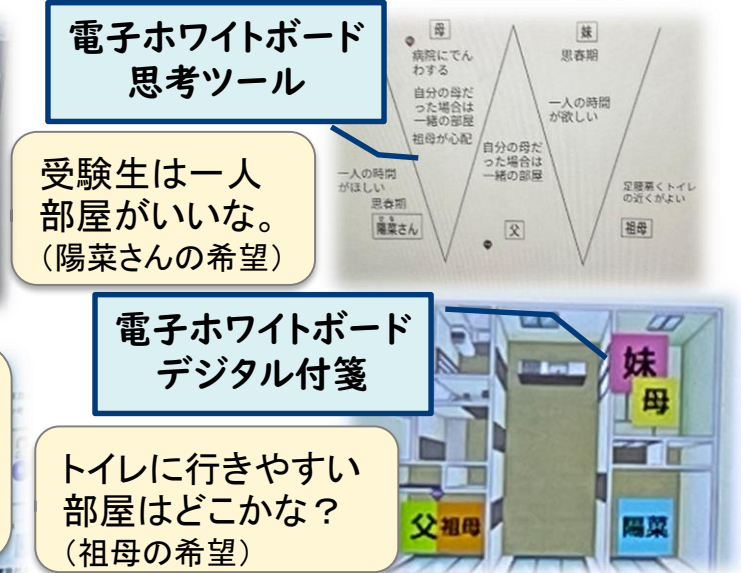
学習支援ソフト
スタンプ

同じ家族構成、
同じ間取りでも、
いろいろな割り振りが
考えられるな。

学習支援ソフトに例示された家族（父43才、母42才、陽菜さん13才、妹8才の4人構成）と間取り図を基に、年齢や生活行為を踏まえながら部屋の割り振りを考えました。スタンプ機能を活用して部屋の割り振りを示し共有することで、様々な割り振りができるとに気付きました。

【 ICT活用の場面③ 】

5年後の変化に伴い家族みんなが心地
よく過ごせる部屋の割り振りを考える



電子ホワイトボード
思考ツール

受験生は一人
部屋がいいな。
(陽菜さんの希望)

電子ホワイトボード
デジタル付箋

トイレに行きやすい
部屋はどこかな？
(祖母の希望)

5年後、家族構成等の変化（祖母の同居、陽菜さんは受験生）に伴い部屋の割り振りについて、電子ホワイトボードに示した思考ツールを活用して家族一人一人の希望を出し合いました。また、間取り図にデジタル付箋で示すことで対話が促され、家族みんなが心地よく過ごせるように調整しながら部屋の割り振りを考えました。家族構成や各自の希望によって住空間の変化が必要であることに気付くことができました。